

参加無料・オンライン形式

事前申込制 = 3月5日(金)締切=
ご不明な点や不安がある方は、遠慮なくご相談ください。

1 四日市大学地域連携フォーラム2020
基調講演

SDGs— 危機の時代の羅針盤

—社SDGs市民社会ネットワークセンター・政府SDGs推進円卓会議構成員

稲場 雅紀 氏

2030年までに世界から貧困をなくし、「持続可能な世界」への変革をめざす国連の「持続可能な開発目標」（SDGs）。地球温暖化や格差、社会の分断、新型コロナウイルス感染症など、私たちの生活にも大きな影響を及ぼしている地球規模の危機を解く「鍵」がここにあります。17のゴールで世界をつなぎ合わせるSDGsをヒントに、より良い明日の世界への道筋を考えてみましょう。

2 四日市大学が取り組む地域課題解決のための研究
特定プロジェクト研究報告

特定プロジェクト研究とは？

四日市大学研究機構長
環境情報学部教授 小川 東

マイクロプラスチック問題

四日市大学環境情報学部
准教授 大八木麻希

食品ロス問題

四日市大学副学長
総合政策学部教授 松井真理子

森林・里山問題

四日市大学地域農業研究所長
環境情報学部准教授 廣住豊一

基調講演講師プロフィール、特定プロジェクト研究講演内容の詳細は、裏面をご覧ください。

●お申し込み方法●

下の「お問合せ先」に次の事項を お知らせください。
①ご氏名・ふりがな ②ご住所 ③電話番号 ④メールアドレス

お申し込み完了後、別途「閲覧用URLをメールでお送りいたします。このメールが届いたことを必ずご確認ください。

●お問合せ・お申込先●

四日市大学研究機構
〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200番地
TEL 059-365-6712 FAX 059-365-6619
Email<yuro@yokkaichi-u.ac.jp>

2021年
3月 7日 日
13:00~16:30
オンライン形式
(Zoom・ウェビナー)

地域連携フォーラム

「地域連携フォーラム」は、四日市大学が地域課題解決を目指して組織的に推進する「特定プロジェクト研究」の内容を、地域の皆様にわかりやすくご報告するイベントです。本学は、「誰一人取り残さない」の“誓い”のもとでよりよい国際社会をめざすSDGsの趣旨に賛同し、その目標達成の一助となれるよう、全学的に取り組めます。

SDGs

基調講演 「SDGs—危機の時代の羅針盤」

稲場 雅紀氏（講演内容は裏面）



講師プロフィール：90年代に横浜・寿町での医療・生活相談活動、レズビアン・ゲイの人権課題への取り組みを経て、2002年より(特活)アフリカ日本協議会の国際保健部門ディレクターとしてアフリカのエイズ・保健問題に尽力する。2017年、「一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク」を設立。また政府SDGs推進円卓会議構成員としてSDGsの普及や政策提言に取り組む。共著書に「SDGs 危機の時代の羅針盤」(岩波新書)など。

特定プロジェクト研究

「特定プロジェクト研究」の概要と意義

研究機構長 小川 東(四日市大学環境情報学部特任教授)

研究機構では、四日市大学の研究活動とその社会還元活動を中心に、研究活動に関わる業務を推進しています。その中で「特定プロジェクト研究」は、文部科学省補助金事業「地(知)の拠点(COC)」(2014～2016年度)の後継事業として、本学が独自に地域社会との連携を目指して取り組むプロジェクトです。3件のプロジェクトの研究報告に先立ち、特定プロジェクトについて紹介します。

マイクロプラスチック

「伊勢湾流域圏のマイクロプラスチック問題の把握と対策」

研究代表者 大八木麻希(四日市大学環境情報学部准教授)

マイクロプラスチック(MP)について、2019年度～2020年度までの調査で伊勢湾流域圏の分布状況やその特徴及び付着藻類に関する貴重なデータが得られ、その結果を考察しました。本研究は三重県、愛知県及び企業からの講演依頼や相談を多く受けており、本学がこの分野で地域貢献に寄与できるのみならず、伊勢湾流域圏でのMPの挙動解明に有益な取り組みとなりました。

食品ロス

「四日市市における食品ロスの削減を目指す、分野横断的SDGs連携モデルの推進とコレクティブインパクトの研究」

研究代表者 松井真理子(四日市大学環境情報学部教授)

2019年度に実施した、四日市市内の食品関係事業者の食品ロス削減への取り組み調査に基づき、2020年度に実施した2つの調査—①食品製造・卸売・小売・飲食の各業界へのヒアリング調査、②市内50世帯で実施した「食品ロスダイアリー」調査—の結果を発表します。また食品ロス削減に向けた食品業界と消費者の連携のあり方について、今後の研究の展望についても言及します。

森林・里山

「北勢地域における森林価値再発掘と里山圏資源循環モデルの構築」

研究代表者 廣住豊一(四日市大学環境情報学部准教授)

北勢地域は豊かな森林資源に恵まれています。一方で開発による森林生態系の破壊、放棄竹林による里山の荒廃や獣害等の課題を抱えています。本研究では、貴重な野生動物を通じて森林の魅力を生かして社会へ伝えていくとともに、里山の健全度評価や獣害動物調査、竹林間伐材の農業利用による竹林資源の有効活用等を通じて、里山の再生と森林価値の再発掘を目指した取り組みを行っています。

特定プロジェクト研究の詳細は

四日市大学研究機構

検索



※お申込み・お問合せ方法は、裏面をご覧ください。